

ニッポンハム食の未来財団 2023 年度第一期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	「教育現場における食物アレルギー・エピペン講習会」(学校関係者対象)
フリガナ	ニシカワ ユキ
申請者(代表者)氏名	西川 由記
団体名(正式名称)	団体名: ひょうご食物アレルギーの会「オリーブ」 申請者の役職・肩書など: 代表

1. 活動結果要約

学校生活でのアレルギーに関する対応は学校生活管理指導表をベースに学校と話し合いが進み、エピペンを所持する重度アレルギー児の保護者は個別に細かく配慮をお願いする必要があり集団生活にも大きな不安を抱えている。

学校側も、日頃から栄養教諭、養護教諭が中心となり定期的に勉強会等開催されているが重度アレルギー児の対応に関しては漠然とした不安を持たれていると聞き、アレルギー専門の医師、小児アレルギーエドゥケーターに入っただき講習会を開催した。

講習会の会場を実在する学校、対象をその学校に勤務される先生方全員、講習会の内容をその学校で食物アレルギーを持った在校生で想定し、実際に症状が発症した場合のエピペンロールプレイをすることでリアルに学んでいただけた。

また打ち合わせや振り返り、事前事後アンケートから学校の先生方の不安や保護者に対する率直な気持ち、希望やアレルギー児に対する熱い思いも知ることができた。講習会当日は当会メンバーの学校生活に関するアンケートを元に学校の先生方へ日頃のお礼や学校への思いも保護者の立場から直接先生方にお伝えし、学校の先生、保護者がお互いを理解し、専門家のアドバイスをいただきながら多角的に食物アレルギーについて考えることができた。学校の先生からは、「アレルギー児の保護者とは情報共有を丁寧にさせて欲しい」「保護者からの情報が、児童への対応に直結するので新しい情報は遠慮なく伝えて欲しい」「エピペンのシミュレーションを行うことで再度把握しておかなければいけないことが明確になった」「エピペンを使うことへのためらいがなくなった。このような研修がこれからもあると嬉しい」という声が多数あった。

2. 活動目的

【目的と意義】

- ・学校関係者、保護者が日頃抱く漠然とした不安をそれぞれの立場から伝えお互いを理解しアレルギー児の安全について考える環境を整える。
 - ・学校関係者、医療関係者の方、保護者（当会）と一緒に作る講習会とする。そのために学校関係者の疑問、不安、保護者への率直な思いなど事前アンケートやヒアリングを通して課題を洗い出し、その学校が必要とする講習内容を講師に依頼、相談しマニュアル通りではなく、その学校に向けたオリジナルの講習会とする。
 - ・実在する「教育現場」を舞台にロールプレイをしながら緊急時の対応を認識、確認する。
 - ・講師に地域の中核病院のアレルギー専門の医師、小児アレルギーエドゥケーターを迎えることで地域を挙げて課題に取り組むことができる。また学校関係者の日頃の小さな不安も講師へ直接質問解消する。
 - ・保護者から日頃の感謝の気持ちを直接学校関係者に伝える。
- ⇒以上のことを踏まえ、安全にアレルギー児が学校で生活しやすい環境作りのために必要なことは何かを学校関係者、医療関係者、保護者が一緒に考える。

3. 活動方法

講演会実施：2024年8月29日（金）10時30分～12時

講師：加古川中央市民病院 小児科 医長 アレルギー専門医 松本和徳先生

神戸市立医療センター西市民病院 小児アレルギーエドゥケーター 渡木綾子先生

対象者：小学校教職員 参加人数約50名

内容：「教育現場における食物アレルギー・エピペン講習会（学校関係者対象）」

10時30分～10時50分 食物アレルギーについて講義

10時50分～11時50分 ロールプレイ・教職員から講師へ質疑応答

11時50分～12時00分 講師総評・保護者からヒヤリハット事例の紹介、日頃のお礼等

【計画通りにできた内容】

- ・「講義（医療関係者）／ロールプレイ（学校関係者）／学校の先生方へお礼を伝える（保護者）」
⇒三者が一緒に子どもの安全について考えることができた。
- ・事前事後アンケートを学校関係者に実施し、日頃のアレルギーに対する疑問点、不安な点や講習会前後のアレルギーに関する緊急時対応の意識調査の変化を調査した。
- ・養護、栄養教諭から日頃の学校での対応、マニュアル、講義希望内容のヒアリングを実施し講師に相談しながら学校のニーズに沿った講義内容を目指した。
- ・学校関係者が直接講師に学校生活において日頃持つ細かな質問ができた。
- ・保護者から学校関係者へ日頃のお礼と重度アレルギー児を持つ親の気持ち、学校生活での心配な点、ヒヤリハット、配慮のお願い、なぜ細かな配慮が必要なのか等を理由と共に伝えた。

【計画通りには実施できなかった内容】

- ・当初ロールプレイは2案⇒1案へ（参加メンバーを変え複数回1案に絞って実施）
- ・ロールプレイの感想をその場で付箋でシェア⇒アンケートで共有に変更

【計画から外れて実施した内容】

- ・ロールプレイ配役：講師の指示のもと、当会メンバーがアレルギー児とその他の児童役（友達）として参加した。

4. 結果及び波及効果

【活動結果】

（保護者）

- ・打ち合わせを進めていくなかで、学校の先生方の日々のご苦労など保護者が知ることができない話を直接伺うことができ、日頃のお礼を伝えることもできた。先生方の日々の負担が少なくなるような取り組みができたと思う。
- ・アレルギー児の保護者と学校との面談は毎月開催されたり、年に1回年度末に開催、また紙面

のみの確認だったり地域によってばらつきがあるが、日々の情報共有の必要性を知ってもらうこともでき、認識もできた。また保護者は子どもに自身のアレルギーのことについて年齢に合わせて教えることも必要だと改めて感じた。そのためには、保護者もアレルギーについてきちんと学んだり、治療を進めたり、不安なことは主治医にこまめに相談、報告することが大切だと感じ、当会でもその重要性を情報共有して発信していきたいと思う。

(学校関係者)

- ・シチュエーション対応を含めたエピペンの重要性について認識していただくことができた。
- ・専門の医療関係者から担任、その他の学校関係者がアレルギー児に対応する際生じる細かな質問疑問に細かく答えていただくことができた。
- ・保護者との情報共有の重要性を認識していただけた。
- ・改めて学校内で講習する場合のポイントを理解していただけた。
- ・実際に緊急対応をしたことがない若い先生にも日々の備え、対応の重要性について認識していただけた。
- ・担架、校内放送などを使用することでさらにスピーディーに対応できることを知っていただけた。

(医療関係者)

- ・学校関係者、保護者が抱える日頃の悩みを専門職の立場から橋渡し役として解決し、日々の講習の必要性を認知していただけた。
- ・「このように学校全体で講習する意義は大いにある」と感想をいただいた。

【エピペンロールプレイをした教職員の感想】

- ・落ち着て対応することが難しかった。人が多く居た方が臨機応変に対応できると感じた。
- ・実際は教室と職員室が離れているので、より多くの職員の応援が必要だと感じた。
- ・情報共有の大切さが分かった。部屋が離れていて情報のラグが生じるので。携帯電話でリアル

タイムな情報のやり取りが必要であると感じた。

【エピペンロールプレイで子ども役をした感想】

- ・緊迫したなか先生が優しく声を掛けてくださったのでホッとした。
- ・エピペンを打たれるまでの時間が思ったよりも長く感じた。

【波及効果】

- ・今後の学校単独での講習の際に講習会の充実度が変わってくる。
- ・学校関係者間で講習の必要性を伝えていただける。
- ・保護者も正しい知識を知る学習会開催の必要性を改めて認識した。
- ・学校の先生だけにお任せするのではなく、保護者も一緒に子どもの安心、安全な環境作りの必要性について考えていき、少しでもご負担を減らせたらと思った。
- ・学校関係者から講師への質問内容から今後の学校での講習内容をよりよくするためのアドバイスをいただいた。

5. 今後の活動について

【どんな活動を進めることが必要か】

- ・近年アレルギーと診断される子どもは増加傾向にあるが、軽快していく子も多いなか、治らずに不安な気持ちのまま入園、入学を迎える保護者も多い。保護者間で情報共有、発信、医療関係者とのつながりを大切にし、困ったことは相談できる体制を作る。
- ・学校関係者には一部の教職員だけでなく今回のように学校全体でアレルギー学習会を他校でも開催し緊急対応講習の必要性について認識していただくことが必要だと感じる。
- ・講師（専門の医療関係者と参加する側）の距離が近い学習会を開催し、身近にアレルギーを感じていただくことでハードルを低くする。

【期待できる波及効果】

- ・ 専門の医療関係者に相談することで小さな不安が解決し正しい知識を得ることができる。
- ・ 患者家族と “つながる” ことで保護者の不安が少しでも解消できる。

【終了後の活動計画】

- ・ 行政、学校関係者の方と一緒にこのような活動がどのようにしたら続けられるか相談する。
- ・ 活動報告を SNS に記載し、活動について知っていただく。

以上